

令和8年度 第1回 小田原市社会教育委員会 概要

- 1 日 時：令和8年5月29日（金）午後2時から午後4時まで
- 2 場 所：小田原市生涯学習センター本館 第2会議室
- 3 委 員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、梅原委員、齊藤委員、平井委員、箕輪委員、山田委員、山本委員
- 4 職 員：田村子ども若者部副部長、遠藤生涯学習課長、小林文化財課長、鈴木図書館長、蓮見スポーツ課長、岡小田原城総合管理事務所長、一寸木生涯学習課副課長、原生涯学習課係長、廣瀬生涯学習課社会教育指導員、大谷社会教育指導員、古矢社会教育指導員、高橋生涯学習課主任、今宮生涯学習課主査
- 5 傍聴者：1名

6 概 要

1 委嘱状交付

平井委員、梅原委員へ、遠藤課長から委嘱状を交付した。（石川委員は欠席）。

2 遠藤課長挨拶

教育長が公務で欠席のため、遠藤課長から挨拶をした。

3 委員紹介及び職員紹介

出席委員及び職員から、簡単に自己紹介を行った。

4 報告事項

（1）附属機関への委員の推薦について

資料3に基づき、一寸木副課長から説明した。

（質問等なし）

（2）令和7年度主要な社会教育事業の結果について

資料4に沿って、生涯学習課、文化財課、図書館、スポーツ課、子ども政策課から説明。

（質問等なし）

（3）令和8年度主要な社会教育事業の予定について

資料5に沿って、生涯学習課、文化財課、図書館、スポーツ課、子ども政策課、小田原城総合管理事務所から説明。

（質疑）

【箕輪委員】PTA研修の件について昨年この委員会の中でもいろいろ話題が挙がっていたかと思うが、アーカイブ化の検討や、研修の時期等、今年度実施するにあたり何か検討したことはあったのか。

【遠藤課長】ご意見は承っているが、PTA連絡協議会と今後どうしていくか考えたい。

【箕輪委員】事業報告書の結果には記載がないが、中央図書館等の事業で、さまざまな団体が、図書館でいろんな講座をしているのを広報誌で私よく目にすることがあるが、それは社会教育事業とはまた違う話なのか。

【鈴木館長】図書館の創作室等を活用して募集をかけている。図書館としてはその事業に力を入れているので、もしやりたいものがあればご相談いただければと思う。10月のエレベーター工事の時期は外させていただく。早めに相談があればと思う。

【箕輪委員】ありがとうございます。それをきっかけに図書館を活用される方も、いろんな裾野が広がっているんじゃないかなという印象を受けているので、とても良い事業なんじゃないかなと拝見していた。

最後に、スポーツ課の学校プール開放だが、先ほど4校だけがプール運営委員会があり、夏休みに子供たちが自由に使えるということだと思うが、要は10何校ある小学校の子供たちは夏休みに、自分の学校のプール開放がないということは、活用はできてないということだと思う。

【蓮見課長】プール開放についてだが、スポーツ課から各学校に、プール開放開催についての意向確認を行う。学校によっては民間施設で行うところもある。監視員などのプール開放に必要な経費の一定割合を市が負担する、というようなスキームでやっている。実はコロナ禍前はもっと多かったが、コロナ禍で1回（開催）ゼロになって、2年・3年ぐらいゼロの期間があり、そこからまた募集をかけて少しずつ上向きにはなってきた。今はまだ4校で止まっているという実情。今年度はこれから各学校に意向調査をかけていく。

【箕輪委員】プールの授業が民間委託になってきているというのは、かなり前から伺っているが、学校のプールを使えば手が差し伸べられているが、じゃないところの子供たちには何か補助的なものを全体的に何か検討しているのか。

【蓮見課長】市としてもそれは大きい課題と認識していて、ご存じの方はいるかと思うが、御幸浜プールは老朽化で水漏れしてしまい、一部はもう使えない。子ども用のプールはまだ残っているが、これも機械が壊れたら多分更新ができないだろうと言われていて、その時に民間との連携と、市町村間の広域連携、あたりで対応していきたいが、その際、市が一定の助成をすとか等のスキームは、どこかのタイミングでは考えなければいけない課題感を常に持っている。

【箕輪委員】ありがとうございました。

【梅原委員】着衣水泳の機会が減っているが、防災を視点にした補助的なプログラムが拡充できればいいと思う。また、体験活動がアウトドア中心なのは少し偏りがあるように

感じる。文化活動も増やすべきではないか。

【蓮見課長】現状だと着衣水泳に関して、必要性があると一般的に言われており、必要性を認識しているが、小田原市でそこに特化したものが何かあるかと言ったら、今は見当たらないと思っている。これは課題感として、持ち帰って話をしたいと思う。

【梅原委員】ぜひ何かあれば助かると思う。もう1点が、子供たちのリーダーシップを高めるような体験は、どうしてもアウトドアや野外活動的なものが多い。野外活動が苦手な子はいらっしゃるので、文化部的体験があると、そこから外れてしまっている子たちは行きやすいと思うが、そういったものはないのか。

【田村副部長】補足で、青少年育成の立場ですと、子供たちの外での活動の体験格差が大きいというのも社会的な問題になっており、どうしてもこのような活動が多くなってしまう一方、青少年育成ではなく、子ども政策課で広くとらえたときに、子どもの居場所づくりも支援しており、その中では、学習支援や、地区公民館の中で色々な活動をされている中に、お子さんに来ていただいて、活動の体験等を行う、ということもある。

【梅原委員】それはどういうところで発信されているのか。

【田村副部長】今、子どもの居場所ポータルサイトというのを立ち上げており、今年度からいっどこで何をやってるっていうのは情報発信をさせていただいている。ぜひそちらもご覧になっていただいて、山本委員にはそちらでも、かなりいろんな企画をしていただいているので、御覧いただけたらと思う。

【梅原委員】以上です。ありがとうございました。

【有賀委員】2番のキャンパスおだわら事業ですが、5番のキャンパスおだわら情報誌発行ということで、今後回数を検討中とあるが、今まで年4回出されていたと思うが、これは減少する方向で検討されているということか。

【原係長】キャンパスおだわらの情報誌についてですが、これまで年4回で、3ヶ月ごとのイベント情報などを集めて、ちょっとした冊子のような形でお配りしていた。ただ、新鮮なイベントの情報が知りたい、というところがあると思いますので、例えばもう少しコンパクトにしつつ、頻繁に配れるような形にすることも必要かなということで現在、発行をお休みしている。発行の仕方含め、変えていこうと思っている。

【有賀委員】内容を精査していくというイメージか。やっぱり、デジタル化が進んでと思うが、紙ベースで活用される方も、たくさんいらっしゃると思うので、そのあたりも

配慮をお願いしたい。

4 協議事項

- (1) 今期の研究テーマの協議について、活動報告書案について。資料6・7に基づいて高橋主任から説明した。

【木村議長】資料6の箕輪さんから出たご意見は、案の中にはもう入っているね。それでは、皆さんと協議をしてきた、生涯にわたる学びとの出会いと学びの継続、繋がりへの支援について、生涯学習の新たな出会いのつなぎなおしを何回かこの辺、皆さんと協議をした中で、事務局が活動報告案としてまとめてくれた。
できれば、これを全文変えるってということではなく、皆さんが読んで、この辺の文言は変更すべきというようなことがあれば、ご発言をお願いしたい。

【山本委員】10ページ、意見・アイディア等（「4つの視点」ごと）の部分の、丸の上から3番目の今後の課題の「障がい児、病児、障がい・病児きょうだい児…」というところについて、医療、医療が必要な子供は多分病児に入っているのかと思っているのですが、医療介護が必要な子どもも、この中にいつも入ってないってことを言われたことがあったので、もし入れることができるのであれば入れた方が良いと思う。障害だけど、多少ちょっと障害とも違う病児、医療介護だけど、病児とも違う、治らないものなのでっていうことで、何かここが宙ぶらりんっていうふうに、その当事者は感じてしまうそうなので、もしその障害って中の1つに今後も付け加えていただければ、いいと思う。

【一寸木副課長】

貴重なご意見ありがとうございます。「障がい児、病児」の後に、今おっしゃられた「医療介護が必要な子ども」と訂正させていただく。※会議後、「医療ケア児」が適切な表現との話になり、変更となった。

【木村議長】順番に発言していただくが、有賀さん、どうか。

【有賀委員】最後の審議を受けての事業展開について、視点のポイントを加えてもらいありがとうございます。少し焦点化されたと思う。すごく細かいことで申し訳ないが、表記上のことで、まず1点目は、14ページの表の、2のPTA研修のPTA研究集会、PTA広報者研修会、文字のサイズは他と違ってここだけ対応が違うと思うので、ここはそろえた方がよろしいか。もう1点目は18ページで、真ん中あたりのサークル団体の支援、地区公民館支援の(5)多様性を尊重した交流型体験型の学びの実現ということで、体験型の「の」が加筆されたが、目次は「体験型遊びの実現」となっているため、目次の体験型の「の」を付け足したほうがいいかなと思う。

【一寸木副課長】ありがとうございます。ご指摘の点を修正させていただく。

【木村議長】続いて齊藤先生いかがか。

【齊藤委員】内容に偏りがあると思う。子供の内容ばかりになっているので、本当にそれでいいか課題はあると思うが、皆さんの意見が集約されたので、次なる委員にバトンタッチができるのではないかな。

【山田委員】小学校や中学校の過去に加藤校長が、ご意見されたと思うので、大丈夫じゃないかと思う。

【梅原委員】11 ページの下から2行目に記載している吹奏楽団体について、団体名が分かれば、興味がある人は検索できるのでいいと思う。また、この案とは違うが、そもそも公民館の使用方法がさっぱり分からないので、予約方法などの情報をもっと知ることが出来れば良いと思う。

【梅原委員】今まで公民館を使うという視点がなかった。大々的に周知したらいいと思う。

【一寸木副課長】吹奏楽団体の、個別団体名についてだが、個別の名前を入れるというのはここでは差し控えたいと思っている。地区公民館利用の話については、この報告書とはまた違う話ではあるが、現在128館ある地区公民館は地域の自治会で運営運用していただいております、それぞれ館長さんがいます。公民館に電話はなく、館長さんの個別の電話番号が公民館への連絡先である。第三者からの問い合わせの際、電話番号を公開してよいと回答があった館の連絡先について生涯学習課を通してお伝えしている。公民館の貸出し条件や運用については、それぞれの公民館に直接お尋ねいただく必要があるため、公民館をご利用になりたい場合は生涯学習課にまずお問い合わせいただきたい。

【梅原委員】まず公民館という文字が頭に浮かばないとアクセスできない。

【一寸木副課長】そうですね。例えば、地域で何かイベントをやりたい時に、地域でそのようなことが可能な場所ありますか、といったような問い合わせを小田原市にいただいた際に、地区公民館を紹介できる場合であればご紹介するということもあるかもしれません。

【梅原委員】ありがとうございます。

【木村議長】平井委員はどうか。

【平井委員】私も今日は初めてなので、この内容について口をはさむことはないが、第一印象としては、地域のことに対しての記述は少ないと思う。小田原については二宮尊徳が

出てくると思うが、小田原らしい生涯学習というのはどこに視点があるのか等を分かりやすくしてもらえればいいと思う。

【木村議長】最後に副議長お願いします。

【笹井副議長】多様な論点を整理し、そこに該当する取り組み施策事業というものを当てはめ、一般の人が見てもよくわかるようになっており、よくできていると思っている。ただこのままだと、中間的なものという印象を与えるので、それを洗練させ具体化していく方向に次期以降持っていった方がよいと思う。1度に全部を行うというのは難しいので、市なりの優先順位をつけ、どのように予算確保するのか、市役所とか我々の問題に戻ってきていると思うが、多くの人の理解が得られるんじゃないかと思う。

【木村議長】 ありがとうございます。協議はここまでとしたい。
本日、委員の皆さんからのご意見等はその後、教育委員会の方に提出するため、私の方に一任させていただきながら、事務局と作り上げていきたいと思いますが、よろしいか。

(賛同)

【木村議長】 ありがとうございます。それでは、事務局と私の方で報告書の方はまとめていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【高橋（事務局）】 次回の社会教育委員会議会の開催は8月下旬の開催を予定している。近日中に別途通知を発送するのでご承知願いたい。最後に、お手元の資料についてご案内させていただく。神奈川県から「社会教育委員がつなぐ学びと出会い」というご案内が来ているので、ご興味ある方はぜひ参加してみてください。また、「小田原協働プラン」についてもお時間あるときに一読していただきたい。

【一寸木副課長】 それでは本日の社会教育委員会議会はこれもちまして閉会とさせていただきます。長い方は2年にわたりまして、ご協議いただきまして誠にありがとうございます。また引き続きよろしくお願いいたします。本日は大変お疲れ様でした。

閉会